

日露戦争の真実

山田朗著

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』には描かれていない日露戦争の真実を明らかにしています。



軍事的に〈失敗〉を重ねる日本軍の姿を、戦争の経過を追いつつわかりやすく解説。日本

が何をめざして日露戦争を行ったか。日露戦争の世界史的意味などにも触れています。

「アジア太平洋戦争の種は、すべて日露戦争でまきつくされている」との指摘は、日本の近代史を考える上で傾聴に値します。

(高文研・1400円)

博士漂流時代

「余った博士」はどうか？

榎木英介著

理工系を中心に博士号取得者やポストドクター（短期雇



用の博士研究員)の就職難などの厳しい状況を、客観的なデータで概括し、解決策を提案。著者が

めざす「知を駆動とする社会」を実現する立場から、「博士は使えない」などの俗論に反論し、博士が活躍する場をどう社会に広げるかを提言。日本の未来にとっても重要であることを明らかにします。

(ディスカヴァー・トゥエンティワン・1200円)

「地元」の力

金丸弘美著

地域再生のためには、自分たちのオリジナルな個性をどう演出できるかがカギという



著者。そのために必要なデザイン力、発信力、知恵力、コミュニティ力、編集力、伝統力、連携力を発揮

する元気な18地域を取材しています。体験での「学び」や「地産地消」といった消費者の要求に、自分たちの知恵を出し合い応える三重県の「伊賀の里モクモク手づくりファーム」のとりくみなどを紹介します。

(NTT出版・1600円)

小豆島(草壁・安田)

の学童集団疎開

小豆島九条の会

副題は「川北国民学校(大阪・西淀川区)の児童たち」。



1944、45年に来島した大阪の小学生(9~12歳)の疎開記録集です。疎開体験者の座談会、証言の

聞き取り、資料収集で2年がかりで刊行。ひもじさゆえに、蘇鉄の実を食べたこと、夜の空襲警報発令で疎開児のための避難ごうがなく田んぼのあぜ道を逃げたことなどがリアルに語られます。

(☎0879 (62) 0271
大内・頒価1300円)